

三郷市市民パブリック・コメント手続の結果の公表

1 題名

三郷市立学校設置及び管理に関する条例の一部改正（案）

2 案の公表の日

令和3年11月25日（木）

3 意見提出期間

令和3年11月25日（木）から12月24日（金）まで

4 意見の提出人数

市民23名

5 提出意見と市の考え方

（提出意見は、個人や団体が特定されるおそれのある表現を除いて、原則、原文のとおり掲載しています。）

番号	提出意見	市の考え方
(1)	<p>学校統合自体は賛成です。クラス替えができて、お友達が増える事はとても良い事だと思います。ですが2年後では早いと思います。前間小周辺道路の住民の印象はご存じでしょうか？「車通りが激しい、危ない、怖いなど」私の出会ってきた方々は皆同じ事を言います。前間小の保護者の方でさえ。私もずっと三郷市民ですが同じです。これから新しい道路ができて更に交通量がふえます。まずはその道路ができて、交通量や危険箇所を調べて統合に向け子供達が安心安全に通学できるように周辺を整えてからではないでしょうか？統合の話が進み、来年入学の保護者の中</p>	<p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>通学路の安全については、大変重要な事項であると認識しております。特に、前間小学校周辺の道路につきましては、職員が朝の通学時間帯や昼間に実際に現場を歩き、交通量の多い場所などを確認しております。今後、</p>

	<p>には前間小に通わせるのは危ないから丹後小に学区変更したり丹後学区に引っ越す方も実際にいました。</p> <p>また、アンケートを実施したようですが、令和元年の5年生。その子供達は実際に通う子供達でしょうか？通わせる保護者の方でしょうか？実際に通う子供達や通わせる保護者の意見をたった4回の説明会、たった一回のパブリックコメントで決まってしまうのはとても冷たいように感じました。子供達や学校の先生方の事を考えて、ここまでやってきて頂いたのはとても有り難く思います。ですがもっと現場や子供達、保護者に寄り添った進め方をしてほしいです。2年後では新しい道路の開通してすぐなので不安しかありません。もう少し後の統合でお願いしたいです。</p>	<p>具体的に通学路を検討する際は、特に交通安全の観点から関係機関と連携、協議して対策を講じていきたいと考えております。</p> <p>アンケートにつきましては、令和元年度、三郷市立小・中学校教育環境整備計画改定の際、市内の小学5年生及び中学2年生の保護者、学校長を対象に、学級数や通学時間等に関するアンケートを実施し、学校の適正規模、適正配置の意向を把握いたしました。その結果、多くの保護者にとって、1学年あたり複数学級が望ましいという意向が把握できていますので、改めてアンケートを実施する予定はありません。</p>
(2)	<p>前間小、後谷小に付いては、適正規模に向け順調に進んでいるようで安心しました。今回統合が見送られた丹後小に付いて、再統合をせずに済むよう十分な検討をおこない、結論を出されたと思いますが、短期間に再統合をするようになると、父兄、児童に多大な負担を強いる事になると思いますので、その様な事の無い様に、よろしく願いいたします。今回の統合範囲は、町会等の区域と通学区域が分断されずに済むことも含め、地域にやさしい統合と言えるのではないのでしょうか。地域と父兄、児童の連携と、安全を配慮し進めてください。</p>	<p>丹後小学校につきましては、現在、適正規模の基準である12学級であり、(仮称)三郷流山橋の開通や三郷料金所スマートICのフルインター化に伴い利便性が向上することで、三郷駅北側の住宅地に人口が増えていく可能性もあるため、今回の統合の対象に含みませんでした。再統合の有無につきましては、学校統合は、児童、保護者、地域の方に大きな影響があることから、丹後小学校を含めたこの地域全体の児童数及び学級数の推移を今後も注視していく必要があるものと考えております。</p>
(3)	<p>1 審議員は、地域及び所属する組織等を代表して多くの方々の意見を吸い上げまとめ、</p>	<p>令和3年2月からの三郷市立小・中学校通学区域編成審議会（以下、通学区域編成審議会）の審議委員について</p>

<p>審議員としての考えを述べるべきだと思う。しかし、今回コロナ禍の中で3密防止等のため対面での会話も憂慮され多くの方々の考えを聴く機会が少なく、代表者としての審議員は、単なる個人としての見解を述べるだけに過ぎず、地域及び保護者等の考えを代弁しているとは限らない。従って行政の地域及び保護者が了解しているという認識は正しいとはいえないであろう。なぜ、コロナが収束し、対面での対話及び会議等が多く持てるまで待つことにより、多くの意見をくみ上げなかったのか。結論を得るまで1年2年待っても良かったのではないか。</p> <p>2 審議の過程で、安心安全な通学路を視野に入れて考察を加えたのであろうか。地図上でも良いので、もしも、前間小と統合となった場合、A、B、C等の通学路となるであろうと、安心安全な通学路を想定して、後谷小の児童は、守られた中での前間小への統合となっているのか。</p> <p>3 統合により後谷小には多大なリスクがある。その一つが対等な統合とは言えない。さすれば、不安を抱えたまま入学する事により、将来不登校やいじめ等が心配である。そこで、校名の変更や、新しい校歌の制定等して、お互い対等で、新たな出発であることが実感を持って理解されることは大きな意義があると思うが、担当者はどのように考えますか。</p>	<p>ては、所属する組織等のご意見の取りまとめをお願いしたわけではなく、それぞれの立場からの率直なご意見を伺いました。保護者や地域の方につきましては、市のホームページや学校だよりの他、保護者へのメール配信、地域への回覧板等を通じて、通学区域編成審議会の資料や会議録等の情報発信を行うとともに、学校での説明会や今回のパブリック・コメント手続等を通じて、ご意見を伺うことを実施してまいりました。</p> <p>通学路の安全については、大変重要な事項であると認識しております。特に、前間小学校周辺の道路につきましては、職員が朝の通学時間帯や昼間に実際に現場を歩き、交通量の多い場所などを確認しております。今後、具体的に通学路を検討する際は、特に交通安全の観点から関係機関と連携、協議して対策を講じていきたいと考えております。</p> <p>今回の学校統合については、学校の配置や校舎の規模から前間小学校を統合校としていますが、前間小学校及び後谷小学校どちらも児童数の減少が進んでいるため、2校による統合と考えております。また、統合後の学校生活に期待が持てるよう、統合までの間に、授業や学校行事において、児童が交流できる機会を設けていく予定です。なお、学校名等につきましては、(仮称) 統合準備委員会の中で、意見を聴く予定です。</p>
--	--

<p>(4)</p>	<p>私は〇〇小学校の3年生で、6年生になるときに統合がおこなわれます。今までずっと一緒に過ごしてきたクラスメイトと修学旅行に同じクラスで行きたいので、6年生のクラス替えはやめてもらいたいです。最後の1年でバラバラは悲しいです。</p>	<p>統合により、これまでの環境と大きく変わることになります。新しいお友達と学び、遊び、共に過ごすことにより、人それぞれ、いろいろなものの見方や考え方があることを知り、より成長していくことを期待しています。なお、統合後の学校生活に期待が持てるよう、統合までの間に、授業や学校行事において、児童が交流できる機会を設けていく予定です。</p>
<p>(5)</p>	<p>現状の児童数や今後の推計から、後谷小学校、前間小学校の統合は、最良策と考えます。未来に夢多い子供達が、これからも激しく変わり行く社会を『心豊かに逞しく』生き抜く為には、適正規模が大変重要です。子ども達により良い環境を整えて上げることは、子供達を取り囲む私達大人の責任です。何よりも子供達の将来を第一義に、早期に統合を進めて下さい。</p>	<p>教育委員会としては、児童が集団生活や学習の中で豊かな人間関係を構築することや社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが必要であると考えております。学校が適正な規模となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果は、児童の健やかな育成にもつながっていくものと考えております。このことから、統合時期につきましては、学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p>
<p>(6)</p>	<p>後谷小学校は、丹後上町会の避難場所です。前間小学校及び後谷小学校の統合により、従来通りに変更ないよう、切にお願い申し上げます。</p>	<p>学校は、児童生徒の教育の場であるとともに、災害時の避難所としても位置付けられており、地域の方にとって大変関心が高いことは承知しております。統合後の活用については、避難所としての活用も含め、市の関係部署全体で検討していくこととなりますので、いただいたご意見につきましては、関係部署へ情報提供いたします。</p>
<p>(7)</p>	<p>①通学路の安全が心配です。狭い県道2本が交差し、いまでさえ大型車をはじめ交通が激化しています。その上スマートICフル化、江戸川新橋の供用が予定されています。県道交差点は狭く、ガードレールや歩道がない県道区間もあります。歩道は自転車も通ります。いくら交通指導があっても大変危険な通</p>	<p>通学路の安全については、大変重要な事項であると認識しております。特に、前間小学校周辺の道路につきましては、職員が朝の通学時間帯や昼間に実際に現場を歩き、交通量の多い場所などを確認しております。今後、具体的に通学路を検討する際は、特に交通安全の観点から関係機関と連携、協議して対策を講じていきたいと考えております。</p>

	<p>学路になるのではないかと思います。通学路をどういうルートにするか、安全対策上道路や交差点等の改良が必要か、関係機関と合意した案をまずは示し、その上で統合の是非を論じるべきではないでしょうか。案ができるまで統合は棚上げして下さい。</p> <p>②資料を見て思うのは、統合が直接二つの学校の要望なのでしょうか。「小規模校のメリット、デメリット」「統合の効果」に書かれていることは、一般的な説明であって、二校の現実や問題点等からして統合が切に必要という記述はありません、他地域の児童数急増が強調され、その対策上小さい所は統合するという、上からの統合方針の一環である感がします。</p> <p>③一人一人に目が行き届く教育ができる小規模校の良さを生かした学校であってほしい、と思います。クラス替えができないことがそんなにデメリットなののでしょうか？あるとしたらそれこそ学校、地域の努力で対応することではないでしょうか。いい所を伸ばした特色ある学校であってほしいと思います。</p>	<p>統合方針の策定にあたっては、学校長、保護者、地域の方、知識経験を有する者から構成された通学区域編成審議会を設置し、審議を重ねてまいりました。その後、同審議会からの答申を踏まえ、統合方針を定めております。教育委員会としては、児童が集団生活や学習の中で豊かな人間関係を構築することや社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが必要であると考えております。学校が適正な規模となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果は、児童の健やかな育成にもつながっていくものと考えております。</p> <p>小規模校は、一人一人に目が届きやすく、学校が一体となって活動しやすい、児童同士がお互いをよく理解し、友人関係を深めやすい等という面がありますので、こうした小規模校の良い面を継承していけるよう努めてまいります。</p>
(8)	<p>後谷小と前間小の統廃合に反対します。以下がその理由です。</p> <p>1、後谷小の小規模校ながらの教育実践が統合で実施出来なくなる恐れがある。</p>	<p>小規模校は、一人一人に目が届きやすく、学校が一体となって活動しやすい、児童同士がお互いをよく理解</p>

	<p>2、クラス替えが出来ないと言うのを第一の理由にされているがそれは教育活動上の本質論ではない。</p> <p>3、現在の後谷小地域の子どもの前間小への登校路への複数の道路横断に危険性がある。</p> <p>4、後谷小の地域の広域避難場所として機能の維持が保証されていない。</p> <p>5、費用のカットも理由と思われるが浮くと思われる費用が明確でない。</p>	<p>し、友人関係を深めやすい等という面がありますので、こうした小規模校の良い面を継承していけるよう努めてまいります。</p> <p>教育委員会としては、児童が集団生活や学習の中で豊かな人間関係を構築することや社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが必要であると考えております。学校が適正な規模となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果は、児童の健やかな育成にもつながっていくものと考えております。</p> <p>通学路の安全については、大変重要な事項であると認識しております。特に、前間小学校周辺の道路につきましては、職員が朝の通学時間帯や昼間に実際に現場を歩き、交通量の多い場所などを確認しております。今後、具体的に通学路を検討する際は、特に交通安全の観点から関係機関と連携、協議して対策を講じていきたいと考えております。</p> <p>学校は、児童生徒の教育の場であるとともに、災害時の避難所としても位置付けられており、地域の方にとって大変関心が高いことは承知しております。統合後の活用については、避難所としての活用も含め、市の関係部署全体で検討していくこととなりますので、いただいたご意見につきましては、関係部署へ情報提供いたします。</p> <p>教育委員会では、市を取り巻く社会情勢などを踏まえ、令和2年3月に三郷市立小中学校教育環境整備計画を全面的に改定しました。前間小学校及び後谷小学校の</p>
--	---	---

	<p>6、統合決定時期が拙速である。</p>	<p>統合については、本計画における学校の適正規模・適正配置の基本方針に沿って、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に進めているものです。</p> <p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p>
<p>(9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の統廃合には、何度も会議が行われていますが、肝心の当事者の意見が反映されていません。3年も前に、しかも5年生だけのアンケートでは意味がないのでは？ ・地域代表で町会長が出席したと思いますが我々に報告、意見の聴取、等、全くありませんでした。つまり町会長ではなく、一個人として出席していた事になります。 ・保護者代表で〇〇小PTA会長が出席していたと聞いております。しかし、うちの〇〇〇〇<少年スポーツ団体>の親達には会議の報告はあったが、意見の聴取はなかったと言っていました。つまりPTAの会長ではなく、一個人として会議に出席していました。 ・私は、統廃合は、しかたないと思っています。しかし一部の人かも知れませんが、その人達の話聞いてあげて欲しいと思います。 ・このパブリックコメントに投書してくれる 	<p>アンケートにつきましては、令和元年度、三郷市立小・中学校教育環境整備計画改定の際、市内の小学5年生及び中学2年生の保護者、学校長を対象に、学級数や通学時間等に関するアンケートを実施し、学校の適正規模、適正配置の意向を把握いたしました。その結果、多くの保護者にとって、1学年あたり複数学級が望ましいという意向が把握できていますので、改めてアンケートを実施する予定はありません。</p> <p>また、通学区域編成審議会の審議委員については、所属する組織等のご意見の取りまとめをお願いしたわけではなく、それぞれの立場からの率直なご意見を伺いました。保護者や地域の方につきましては、市のホームページや学校だよりの他、保護者へのメール配信、地域への回覧板等を通じて、通学区域編成審議会の資料や会議録等の情報発信を行うとともに、学校での説明会や今回のパブリック・コメント手続等を通じて、ご意見等を伺うことを実施してまいりました。</p>

	<p>といいのですが、いまさら1人で何か言っても変わらないでしょう。と諦めています。是非、アンケートを！！</p>	
(10)	<p>統合方針の説明資料11ページ「統合の効果」について示されていますが、三郷市の過去の学校統合の実践の中から効果が示されたのでしょうか。それならどの学校なのか具体的な内容を知らせてください。市の示している「効果」の文はあまりに簡潔で具体性がありません。具体的内容をもっと市民（統合対象地域などにも）に知らせないと、真実性が薄いと思います。他の処からの引用ならどこからの引用か示してください。一般的な「期待・希望」の効果なら、地域の状況により効果も異なることもあると思われる</p> <p>また、他からの引用はあまり参考になりませんが。市が統合を示している最大の根拠が「効果」と思われますのできちんと、納得できるように説明してください。</p>	<p>「統合の効果」につきましては、文部科学省による「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きの策定について（通知）（平成27年1月）」などをもとに、「三郷市立小・中学校教育環境整備計画（令和2年3月改定）」の中で課題を整理し、説明会の資料等に反映させたものです。</p> <p>教育委員会としては、児童が集団生活や学習の中で豊かな人間関係を構築することや社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが必要であると考えております。学校が適正な規模となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果は、児童の健やかな育成にもつながっていくものと考えております。</p>
(11)	<p>1, 小学校の適正規模について</p> <p>説明会ではクラス替えができる学校規模にして、子どもたちにより良い学習環境を整えられるということでした。WHOも認めているように「学校規模は100人をうわまわらないほうが学習効果が上がる」。また、国立教育研究所の「学級規模の及ぼす教育効果に関する研究」でも「現行を下回る基準による学級編制」を継続的に実施した学校の児童の方が、その後の学力が高い。」という結果が出ています。子どもたちにより良い学習環境を整えるのであれば、現在の前間小・後谷小の</p>	<p>学校規模については、本市の小学校の適正規模は12学級以上としており、教育委員会としては、児童が集団生活や学習の中で豊かな人間関係を構築することや社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが必要であると考えております。学校が適正な規模となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果は、児童の健やかな育成にもつながっていくものと考えております。</p> <p>また、小規模校は、一人一人に目が届きやすく、学校が一体となって活動しやすい、児童同士がお互いをよく理解し、友人関係を深めやすい等という面がありますの</p>

<p>学校規模が適正な学校規模だといえるのではないのでしょうか。教育的観点からすれば統合の必要はなく、むしろ統合によって今まで後谷小、前間小で培われてきたきめ細やかな教育がなくなってしまうことさえ起こりうるのではないのでしょうか。後谷小・前間小を適正規模（12学級～18学級）にするのであれば、市内の幸房小や新和小のような大規模学校は適正規模にしなくてはいけないのではないのでしょうか。休み時間も曜日を決めて外で遊ぶ時間を決めているのでは、子どもたちにとってのより良い学習環境とは言えません。例えば校庭の児童一人当たりの面積は幸房小・新和小で7.5㎡・6.0㎡、後谷小・前間小で46.0㎡・46.5㎡です。どちらが伸び伸びと過ごすことができるのでしょうか。</p> <p>オミクロン株など新型コロナウイルス感染症の終息が見通せていません。現在の40人、35人の学級規模でソーシャルディスタンスが取れるのでしょうか。文科省も少人数学級の方がよりよい教育効果が上がると考えるからこそ35人学級を進めています。これからさらに少人数学級になっていくかもしれないところで、学校を統合してしまうのは時期尚早ではないのでしょうか。</p> <p>2, 通学路・学区について</p> <p>今、前間小の北側では新しい橋が建設中です。また、三郷市都市計画マスタープランでは新和吉川線という新しい道路が計画されています。さらにインターの問題もあります。</p>	<p>で、こうした小規模校の良い面を継承していけるよう努めてまいります。</p> <p>学級編制については、国では、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を可能とする指導体制を整備するため、公立の小学校の学級編制の標準を、令和7年度までに現行の40人から35人に段階的に引き下げる措置を講じております。本市につきましても、令和3年度から段階的に学級編制の上限を35人に引き下げ、少人数学級を進めております。更なる少人数学級の可能性につきましては、今後も国の動向を注視してまいります。</p> <p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p>
--	--

<p>半田・後谷・小谷堀・田中新田の地域はこれから変わっていくと思われます。どう変わっていくかは私たち地域住民には見えていません。埼玉県他地域でも人口減少と考えていたものが、逆に増加しているところもあります。この地域でも人口の増加の可能性もあると思います。半田は桜小の学区です。新和吉川線という新しい道路ができたとき、半田は東と西に分断されます。東側にいる子どもたちは大きな道路を渡って桜小に通学するか、前間小に通学するか考えなければなりません。後谷小があれば後谷小に通学することができます。これらの地域の変容を確かめたうえで、学校の統合を考えていくべきだと思います。</p> <p>3、今回の4回の説明会について</p> <p>今回の説明会は、教育委員会が主催されたものです。交通量が増えるであろう県道を渡っての通学について質問も出ましたが、都市計画の担当の方にも来ていただいてきちんとこの地域の計画について説明していただきかったです。学校は子どもたちの学習する場でもあります。地域にとっては避難所や、社会体育など地域住民にとって大切な場所です。4回で137名の参加で住民にきちんと説明ができたとお考えですか。このパブリックコメントで意見を聞くというが、説明会できちんと質問し答えていただくのと、意見を言わばなしのパブリックコメントでは重みが違うと思います。</p>	<p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>児童数や学級数の推移については、引き続き、注視していく必要があるものと考えております。</p> <p>保護者や地域の方につきましては、市のホームページや学校だよりの他、保護者へのメール配信、地域への回覧板等を通じて、通学区域編成審議会の資料や会議録等の情報発信を行うとともに、学校での説明会や今回のパブリック・コメント手続等を通じて、ご意見等を伺うことを実施してまいりました。</p>
--	--

<p>(12)</p>	<p>1、小学校の適正規模について</p> <p>統廃合のねらいはクラス替えができる学校規模にして子どもたちにより良い学習環境を整えるということでしたが、WHO（世界保健機構）は「学校規模は100人をうわまわらない方が学習効果が上がる」と認めています。また国立教育研究所の「学級規模の及ぼす教育効果に関する研究」でも「現行を下回る基準による学級編制を継続的に実施した学校の児童の方がその後の学力が高い」という結果が出ています。子どもたちにより良い学習環境整えるのであれば、現在の前間小・後谷小の学校規模が適正な学校規模だと言えます。文科省は少人数学級の方がより良い教育効果が上がると考えるからこそ35人学級を進めています。これからさらに少人数化になっていくかもしれないところで学校を統合してしまうのは時期尚早と考えます。</p> <p>2、通学路・学区について</p> <p>今、前間小の北側では新しい橋が建設中です。また、三郷市都市計画マスタープランでは、新和吉川線という新しい道路が計画されています。さらにインターの問題もあります。半田・後谷・小谷堀・田中新田の地域はこれから変わっていくと思われまます。どう変</p>	<p>学校規模については、本市の小学校の適正規模は12学級以上としており、教育委員会としては、児童が集団生活や学習の中で豊かな人間関係を構築することや社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが必要であると考えております。学校が適正な規模となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果は、児童の健やかな育成にもつながっていくものと考えております。</p> <p>また、小規模校は、一人一人に目が届きやすく、学校が一体となって活動しやすい、児童同士がお互いをよく理解し、友人関係を深めやすい等という面がありますので、こうした小規模校の良い面を継承していけるよう努めてまいります。</p> <p>学級編制については、国では、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を可能とする指導体制を整備するため、公立の小学校の学級編制の標準を、令和7年度までに現行の40人から35人に段階的に引き下げる措置を講じております。本市につきましても、令和3年度から段階的に学級編制の上限を35人に引き下げ、少人数学級を進めております。更なる少人数学級の可能性につきましては、今後も国の動向を注視してまいります。</p> <p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早</p>
-------------	---	--

<p>わっていくかは私たち住民には、はっきりとは見えません。今は児童数が減少していても増加していく可能性も大いにあると思われま す。埼玉県他地域でも人口減少と見込んでいた地域が逆に人口増加になった地域もあります。半田は桜小の学区です。新和吉川線という新しい道路ができた時、半田は東と西に分断されます。東側にいる子供たちは大きな道路を渡って桜小に通学するか、前間小に通学するか考えなければなりません。後谷小があれば後谷小に通学することができます。これらの地域の変容を確かめた上で、学校の統合を考えていくべきだと思います。</p> <p>3、説明会やパブリックコメントの意見などの反映のさせ方について。</p> <p>学校は子どもたちの学習する場ですが、地域住民にとっては避難所や社会体育などの大切な活動場所にもなります。4回の説明会で137名の参加とはあまりにも少ない。パブリックコメントも何人の方々が寄せてくれるのか甚だ疑問です。それは、この統廃合が地域住民の願いや要望から生まれたものではなく、数字から考えて統廃合ありきで進めているからです。</p> <p>寄せられたパブリックコメントに一つ一つ丁寧な説明・回答をしてくださいます。</p>	<p>期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>児童数や学級数の推移については、引き続き、注視していく必要があるものと考えております。</p> <p>保護者や地域の方につきましては、市のホームページや学校だよりの他、保護者へのメール配信、地域への回覧板等を通じて、通学区域編成審議会の資料や会議録等の情報発信を行うとともに、学校での説明会や今回のパブリック・コメント手続等を通じて、ご意見等を伺うことを実施してまいりました。</p>
<p>(13) 前間小、後谷小統廃合についての説明会に参加しての意見です。まず、方針を決定してから条例制定(2022年3月)までの期間が余りにも短かすぎます。保護者にはメール</p>	<p>教育委員会としては、児童が集団生活や学習の中で豊かな人間関係を構築することや社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが必要であると考えておりま</p>

<p>配信、地域には回覧用紙で周知と言いますが、市からの一方的なものです。だから、説明会では様々な意見、質問が出たと思いますが、回答は「2024年4月統廃合」ありきの回答でした。単学級のデメリットのみをあげ、小規模校の良さ、子どもたちのことをどう考えているのかの視点が全くありませんでした。ましてやコロナ禍を経験し国も少人数学級の方向性を出しているところです。</p> <p>地域から学校が一つ無くなることは、大きな問題です。他の自治体では学校がなくなったことにより、そのエリアが衰退してしまったという事例もあるとのこと。前間、後谷小地区は今後、大きな道路、常磐道のフルインター化などで、街の様子が大きく変わっていくことが予想されます。こうした点を見通した総合的な地域の将来像の中で学校のあり方を考えていかなければならないと思います。もし統合なら後谷小の後利用のところまで計画を示すべきです。ぜひ教育委員会の方だけでなく、まちづくり部門や福祉部門の方等を含めた説明会を再度開いていただくことを強く要望します。そして拙速にことを進めずに、今一度細かに子ども、保護者、住民の声を聞き、時間をかけて方針を見直していただき、3月議会への提案は取りやめていただくようお願いします。</p>	<p>す。学校が適正な規模となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果は、児童の健やかな育成にもつながっていくものと考えております。</p> <p>また、小規模校は、一人一人に目が届きやすく、学校が一体となって活動しやすい、児童同士がお互いをよく理解し、友人関係を深めやすい等という面がありますので、こうした小規模校の良い面を継承していけるよう努めてまいります。</p> <p>なお、学校は、児童生徒の教育の場であるとともに、災害時の避難所としても位置付けられており、地域の方にとって大変関心が高いことは承知しております。統合後の活用については、避難所としての活用も含め、市の関係部署全体で検討していくこととなりますので、いただいたご意見につきましては、関係部署へ情報提供いたします。</p>
<p>(14) 私は、障害者の移動支援のヘルパーで、このあたりの道を良く歩きます。後谷小の子ども達は、前間小に統合されたら大型トラックの激しく通る県道を渡って前間小に行かなければ</p>	<p>通学路の安全については、大変重要な事項であると認識しております。特に、前間小学校周辺の道路につきましては、職員が朝の通学時間帯や昼間に実際に現場を歩き、交通量の多い場所などを確認しております。今後、</p>

	<p>ればなりませんね。もちろん信号のある所を渡るのですが、その信号のある交叉点まで出るまでの道が結構危険なケ所があり心配です。両サイドに白線は引いてあるものの、幅は狭く、大型車も通るのでヒヤヒヤします。安全性の担保という事からも問題に思います。それと、地域住民の避難場所という視点からも遠くなります。高齢者、障害者が歩いて行ける距離＝小学校区域内が常識でした。街づくりの基本を壊さないで欲しいと思います。</p>	<p>具体的に通学路を検討する際は、特に交通安全の観点から関係機関と連携、協議して対策を講じていきたいと考えております。</p> <p>また、学校は、児童生徒の教育の場であるとともに、災害時の避難所としても位置付けられており、地域の方にとって大変関心が高いことは承知しております。統合後の活用については、避難所としての活用も含め、市関係部署全体で検討していくこととなりますので、いただいたご意見につきましては、関係部署へ情報提供いたします。</p>
(15)	<p>説明会で少人数の参加で決めることが？ 大勢の声を聞いて学校の統合を考えるべきではないでしょうか。</p>	<p>保護者や地域の方につきましては、市のホームページや学校だよりの他、保護者へのメール配信、地域への回覧板等を通じて、通学区域編成審議会の資料や会議録等の情報発信を行うとともに、学校での説明会や今回のパブリック・コメント手続等を通じて、ご意見等を伺うことを実施してまいりました。</p>
(16)	<p>早稲田6丁目に住む孫たちが関係してくるので両校について関心をもって見ていました。結果は、両校とも小学校としては理想的な教育環境であり、先生方の努力もあり地域とのつながりも良好</p> <p>統廃合については、新道路建設が落ち着いて人の動きの変化も見極めてから実施すべきです。</p>	<p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>児童数や学級数の推移については、引き続き、注視していく必要があるものと考えております。</p>
(17)	<p>部外者の目ではありますが、両校とも小学校としては理想の形と思います。</p> <p>・通学が困難でないこと ・少人数学級であ</p>	<p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校について</p>

	<p>ること・地域に根づき住民のささえとなっていること</p> <p>また、この地域は、新道路建設も進行し人口にも変化が予想されます。地域住民の声を十分に聞いて統廃合の実施は検討し直すべきだと思います。</p>	<p>も、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>児童数や学級数の推移については、引き続き、注視していく必要があるものと考えております。</p>
(18)	<p>現在前間小、後谷小近くにおいて、新しい道路ができつつあるなど、新しい土地活用計画が生まれつつあります。交通量の変化、住宅の数の変化など、これからの変容が私のような地域住民でも感じられています。後谷小学区の子どもたちにとっても、これから交通量が変化していく地域を通り県道を越えて通学していくこと心配されています。学区の変更は、今の街づくりの変化が見えてからということにして、数年後に延期していただきたいと思います。今すぐに決定しないで、情勢を見てからということにしてもらえたらと切に思っています。</p>	<p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>児童数や学級数の推移については、引き続き、注視していく必要があるものと考えております。</p>
(19)	<p>9月に統廃合の事を知り前間小であった説明会に参加しました。2022年度3月に条例が採択されると知り、すすめ方が早すぎるのではないかと、知らない人もたくさんいる。</p> <p>地域の方達の意見はどれ位、反映されたのか疑問です。学校は一度なくすと、また地域に必要な時には新しく作るのは大変です。街づくりや交通事情、子ども達や先生はどう思っているのか保護者は、など、もっと意見を聞き、広い観点から検討してほしいで</p>	<p>保護者や地域の方につきましては、市のホームページや学校だよりの他、保護者へのメール配信、地域への回覧板等を通じて、通学区域編成審議会の資料や会議録等の情報発信を行うとともに、学校での説明会や今回のパブリック・コメント手続等を通じて、ご意見等を伺うことを実施してまいりました。</p>

	す。	
(20)	<p>後谷小学校は、市内で一番新しい小学校と認識しています。わたしの息子、ふたりが後谷小学校で学び、学童保育室で成長しました。わたし自身もPTAの活動などにも参加をし、微力ながら学校の発展につくしてきたつもりです。そのときに本当にこの学校は地域の宝と感じました。三郷で最初に統廃合された小学校は瑞沼小でしたが、その際には多くの保護者からの反対もあったと記憶しています。また、当時の統廃合計画には、後谷小学校はあがっていなかったと記憶しています。子どもが少なくなっているのは事実ですが、たとえば、開発計画などで大きなマンションなどが建てば、子どもの人数も増えることも予測されると思います。また、少人数学校の良さ（行き届いた学習など）がアピールされていないようにも感じます。せめて、もう少し、計画については時間をかけ、じっくりと地域の市民を含め（わたし自身も説明会には日程的に参加できなかった）、話し合いを行ってほしいと思います。その上で、多くの方が納得行く形での結論を出していただきたいと思います。</p>	<p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>児童数や学級数の推移については、引き続き、注視していく必要があるものと考えております。</p> <p>また、小規模校は、一人一人に目が届きやすく、学校が一体となって活動しやすい、児童同士がお互いをよく理解し、友人関係を深めやすい等という面がありますので、こうした小規模校の良い面を継承していけるよう努めてまいります。</p>
(21)	<p>慎重に時間をかけて検討されることを要望します。今の子どもの様子を見れば、ひとりひとりへのていねいな支援が求められています。教員集団が、ていねいな指導をおこなううえでも、小さな学校は小さいながらも大きなメリットがあります。ましてや、感染症の問題もあります。また、前間・後谷地域は、</p>	<p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早</p>

	<p>地域環境としても、高速出口の拡充や江戸川の新しい橋の設置など、大きな変化も見込まれます。どのような変化があるのかも見極める必要があります。文科省も、学校規模の適正化の基準は、地域で柔軟に考えてもいいと言っているわけですから、十分に時間をかけて、考えていくべきことだと思います。</p>	<p>期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>児童数や学級数の推移については、引き続き、注視していく必要があるものと考えております。</p> <p>また、小規模校は、一人一人に目が届きやすく、学校が一体となって活動しやすい、児童同士がお互いをよく理解し、友人関係を深めやすい等という面がありますので、こうした小規模校の良い面を継承していけるよう努めてまいります。</p>
(22)	<p>審議会で決まったことを説明会で話されても、市民は納得できません。本当に市民の声を聞いて教育環境を整えて行くなら再び相互的な意見交流会を設けるべきだと思います。今の状態では一方的過ぎます。本当に子供や地域にとってどんな学校がよいのか考える場を設けてください。</p>	<p>保護者や地域の方につきましては、市のホームページや学校だよりの他、保護者へのメール配信、地域への回覧板等を通じて、通学区域編成審議会の資料や会議録等の情報発信を行うとともに、学校での説明会や今回のパブリック・コメント手続等を通じて、ご意見等を伺うことを実施してまいりました。</p>
(23)	<p>1, 学校統合の始まりについて</p> <p>学校規模の適正化は子どもたちのためとの説明が、過日の説明会でなされました。しかし、統廃合の動きは</p> <p style="text-align: center;">総財務第74号 平成26年4月22日</p> <p>各都道府県知事 各指定都市市長</p> <p style="text-align: center;">総務大臣 新藤 義孝</p> <p>公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について</p> <p>で始まり、それを受けて</p> <p>公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きの策定について（通知）（平成27年1月）</p>	<p>教育委員会では、市を取り巻く社会情勢などを踏まえ、令和2年3月に三郷市立小中学校教育環境整備計画を全面的に改定しました。前間小学校及び後谷小学校の統合については、本計画における学校の適正規模・適正配置の基本方針に沿って、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に進めているものです。</p>

<p style="text-align: center;">26文科初第1112号</p> <p style="text-align: center;">平成27年1月27日</p> <p>各都道府県・指定都市教育委員会教育長 各都道府県知事 殿 各国公私立大学長</p> <p style="text-align: center;">文部科学事務次官 山中 伸一</p> <p>公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きの策定について（通知）</p> <p>によって動き始めたことは周知の事実であり、あくまでも財政的な政策から始まったものであり、子どもたち、教育の観点からなされたものではないことを確認しておきたいと思います。（条例改正及び説明の第1の根拠がないということです。）</p> <p>2、仮に学校規模の適正化ということで、12学級～18学級と示されていますが、WHOの一カーティス報告によるとWHOの学校規模の基準は生徒100人以下（2013年3月9日）WHO（世界保健機関）は、世界各地から「学校規模と教育効果」について研究した論文を集めて多角的に分析し、その結果をまとめとして発表しています。WHOの学校規模についての結論は次の通りです。</p> <p>①近年、子どもの教育機関を組織する際に従うべき原則に関して、有識者による実に多くの著書および報告書が発表されているので、ここで改めて議論する必要はあるまい。</p>	<p>学校規模については、本市の小学校の適正規模は12学級以上としており、教育委員会としては、児童が集団生活や学習の中で豊かな人間関係を構築することや社会性・協調性を育むためには、クラス替えができる適正な規模の中で学べる教育環境を提供していくことが必要であると考えております。学校が適正な規模となることで、教育活動や学校運営がより活発になり、その効果は、児童の健やかな育成につながっていくものと考えております。</p> <p>また、小規模校は、一人一人に目が届きやすく、学校が一体となって活動しやすい、児童同士がお互いをよく理解し、友人関係を深めやすい等という面がありますので、こうした小規模校の良い面を継承していけるよう努めてまいります。</p>
---	--

<p>②それらはすべて、大規模な機関においては回避することができない規則および規制を回避するためには、教育機関は小さくはならない——カーティス報告が提案した生徒100人を上回らない規模——という点で意見が一致している。この基準は1学年あたりでは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の場合は6学年ですから、1学年あたり16人以下 ・中学校の場合は3学年ですから、1学年あたり33人以下 <p>ということになります。</p> <p>つまり、各学年1クラスでその1クラスは16人以下というものです。文科省の言う適正規模と言うのは世界的基準からは遙かに遅れているのです。</p> <p>3, 学級編制と少人数指導について</p> <p>上記の2ですでに明らかなのですが、国内における研究でも</p> <p>学級編制と少人数指導形態が児童の学力に与える影響についての調査 結果概要</p> <p style="text-align: center;">平成24年4月10日</p> <p style="text-align: center;">国立教育政策研究所主任研究官</p> <p style="text-align: right;">山森光陽</p> <p>国立教育政策研究所プロジェクト研究</p> <p>「学級規模の及ぼす教育効果に関する研究」の概要</p> <p>1 研究課題名 学級規模の及ぼす教育効果に関する研究</p> <p>2 研究の期間 平成23～24年度</p>	<p>学級編制については、国では、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を可能とする指導体制を整備するため、公立の小学校の学級編制の標準を、令和7年度までに現行の40人から35人に段階的に引き下げる措置を講じております。本市につきましても、令和3年度から段階的に学級編制の上限を35人に引き下げ、少人数学級を進めております。</p> <p>なお、三郷市立小中学校教育環境整備計画改定検討懇話会の〇〇委員については、三郷市教育委員会の各種委員として、様々な場面で指導や助言を頂いており、三郷市立小・中学校の教育事情に精通されていることから、適任であると考えております。</p>
--	--

○ 目的 学級編制と少人数指導形態が国語、算数それぞれの教科の、小学校第4学年時と第6学年時の学力との関係に与える影響を明らかにする。

示唆：現行を下回る基準による少人数学級編制を継続的に実施した学校の優位性

このことは小規模校のメリットとデメリットとして「きめ細やかな指導、活動機会の設定のしやすさがあるが、多様な考えに触れる機会、切磋琢磨する機会が少なくなる、、、」と説明会でも、議会答弁でも、第2回審議会の報告でも繰り返し述べられておりますが、これは文科省の「学校規模によるメリット・デメリット（例）」コピペでしかなく、教育環境整備室でも審議会自身でも全国的・世界的な教育界の研究がなされた形跡が全くないということに問題があります。審議会の委員メンバーについてもしかりです。

学識経験者等の意見を参考にしていると言っておられますが、私の公開質問に答えていただいた範囲では、〇〇氏を懇談会の委員として委嘱し幅広く意見を聞くために開催したとのこと、さらに「様々な場面でご指導・ご助言をいただいております、三郷市の小・中学校の教育事情に精通されていることから適任である」とのことですが、〇〇氏の経歴からは教育心理学の専門家であって、今回の審議での助言を受けるにはふさわしくないかと思えます。まして、今回の問題は三郷市の教育事情に限った問題ではなく全国的・世界的教育の問題ですが、その視点では語られていない

<p>のではないのでしょうか。したがって、両校の統合が合理的な理由・根拠を持った判断ではないと言って良いのではないのでしょうか。</p> <p>4, 三郷新橋・新和吉川線の開通・整備に伴う地域開発が考えられます。「三郷市都市計画マスタープラン」がスタートしたところですが、具体的にどのように街づくりがなされるのか、見通しができてからでも遅くはないのではないのでしょうか。新和小、幸房小が30学級を超える学校になっていますが、この学校規模は予想されていたのでしょうか。過大な規模を防ぐことはできなかったのでしょうか。コーホート要因法によると学級数が減少するとしています。減少するまで過大な規模の劣悪な教育環境のまま子どもたちに我慢を強いるのでしょうか。この地域でも同じようなこと、とまではいかないにしても、小規模校で統合の対象のままなのではないのでしょうか。</p> <p>この地域の将来計画が確定せず、将来予想がきちんとなされないまま、今統合してしまうのは急ぎ過ぎではないのでしょうか。</p> <p>まとめ</p> <p>基本的に、根拠が崩れた統合には反対ですが、3月議会で性急に決めずに「街づくりの構想」が確定するまで決定の延期を求めます。</p>	<p>後谷小学校は、平成22年度から令和3年度まで、全学年単学級の状況が続いており、今後も、全学年単学級が継続する推計となっております。前間小学校についても、多くの学年で単学級の状況が続いており、今後も、学校の小規模化が継続する推計となっております。</p> <p>教育委員会としては、児童によりよい教育環境を整備していくことを目的に、この地域の学校の小規模化を早期に解消する必要があると考え、令和6年4月の統合に向け、準備を進めていくことといたしました。</p> <p>児童数や学級数の推移については、引き続き、注視していく必要があるものと考えております。</p>
--	---